

市長記者会見記録

日時：2014年11月4日（火）午後2時～午後2時58分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：1 平成26年度かわさきマイスター認定者発表について（経済労働局）

2 「川崎タイ・ラオス経済ミッション団」の派遣について（経済労働局）

<内容>

（平成26年度かわさきマイスター認定者発表について）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日の議題は、平成26年度かわさきマイスター認定者発表について、川崎タイ・ラオス経済ミッション団の派遣についての2件となっております。

それでは初めに、平成26年度かわさきマイスター認定者の発表、並びにご紹介をさせていただきます。市長、よろしくお願いたします。

市長： それでは、平成26年度かわさきマイスターに認定いたしました4名の方々をご紹介させていただきます。

本市では、市民の生活や産業の発展を支えるものづくりに関するすぐれた技術・技能の振興・継承・発展を目指して、平成9年度より、かわさきマイスター制度を実施しており、毎年、応募いただいた方々から選考し、卓越した技術・技能をお持ちの方々を、市内最高峰の匠「かわさきマイスター」に認定しております。

今年度は21名の方々からご応募があり、かわさきマイスター選考委員会において慎重な審議を行っていただき、本日ご出席いただきました4人の方々を、平成26年度かわさきマイスターに認定いたしました。今年度の認定者の皆様を加えますと63職種、81名の方々をかわさきマイスターとして認定しております。

今年度、マイスターに認定した方々の職種は様々でありますけれども、共通していることは卓越した技を身につけているだけでなく、みずからの技能や経験を若い人たちに継承することに取り組んでいるところがございます。1つの分野で長年にわたってのたゆまない努力に敬意を表するとともに、マイスターの皆様方の持つ技術・技能が本市の発展、そして、次世代のものづくりにこれまで以上に貢献することを期待しております。

それでは、4人の方々につきまして、五十音順にご紹介をいたします。なお、4人の方々の略歴及び技能の説明につきましては、この後の認定者の方々からのご挨拶、

そして、お手元の資料をご覧いただければと思います。

それぞれご紹介してよろしいですか。

お1人目でありますけれども、小川登さん。職種は金型部品加工です。小川登さんは、多種多様な精密金型部品加工・精密機械部品加工に卓越した技能をお持ちであり、多摩区登戸にある株式会社リード技研の代表取締役でございます。日本の機械産業の先頭を長年走り続けながら、国内外での技能伝承・後継者育成に尽力されているマイスターでございます。

続きまして、濃沼晴治さん。職種は大工さんでいらっしゃいます。濃沼晴治さんは、伝統木造住宅を建築する大工として高度な技能をお持ちであり、多摩区菅馬場にあります有限会社丸晴工務店の代表取締役でいらっしゃいます。多数の伝統木造住宅を建築しながら、道具や職人文化の継承、そして、後継者育成に尽力しているマイスターでございます。

続きまして、須賀俊之さん、職種は理容師さんでいらっしゃいます。須賀俊之さんは、顧客ごとにカットの方法や手順を変え、手入れが楽で長持ちする理容の高度な技能をお持ちであり、宮前区平にあるmosbarberの代表でございます。おしゃれと癒しと両立させ、髪質のコンプレックスを長所へ変化させる高度な技能と新たな思考を保持するマイスターでございます。

続きまして、吉澤秀人さん。職種は金属切削加工でございます。吉澤秀人さんは、卓上旋盤を巧みに活用した、極細の精密旋削加工に卓越した技能を保持しており、川崎区鋼管通にある有限会社吉澤製作所の代表取締役でいらっしゃいます。卓上旋盤を駆使して、極細の精密旋削加工を行いながら新たな可能性に挑戦し続けるマイスターでございます。

以上、皆様方の職種は様々でございますが、いずれもその分野で長年にわたる練磨と精進を重ねられ、極めてすぐれた技術・技能を身につけられた方々ばかりでございます。私たちの日常生活や、本市産業の発展に不可欠なものづくりをしっかりと支え、豊かで快適な生活に必要な不可欠な仕事をなさっておられる方々でございます。

本日、かわさきマイスターに認定された皆様には、今後ともすばらしい匠の技を生かし、本市最高峰の技術・技能職者として、「ものづくり都市川崎」を支えていただくとともに、ますますのご活躍をご祈念申し上げて私からのご紹介とさせていただきますと思います。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

続きまして、今年度のかわさきマイスターを認定された方々から一言ずつご挨拶をいただきたいと思いますが、大変申しわけございませんが、資料の2ですが訂正をお願いしたいと思います。資料の2でございますが、大変申しわけございません。小川登（のぼる）様とふりがなを書いてございますが、小川登（みのる）様でございました。失礼しました。

それでは、平成26年度かわさきマイスターの皆様にご挨拶をしていただきますが、私のほうでお名前をお呼びいたしますので、演台にてご挨拶をお願いいたします。初めに、小川登さまお願いいたします。

小川登様： 多摩区登戸から来ました小川登と申します。私は、コネクターの金型全般をやっております。最初にリード技研という名前の由来は半導体です。半導体の金型から身を起こしました。半導体が日本からなくなって、それでコネクターに移行いたしました。今うちは20代、30代、40代、50代、60代とおります。そして、うちには機械8種類から9種類ありますけれども、最初にうちに来た人たちは、私がその機械の使い方を全種類教えました。うちにある機械は全て自分で覚えて自分でやっております、いわば多能工です。好きなんです。好きから始まりまして機械は全部使えるようになりました。多分、川崎でもそのような多能工は今いなくなってしまったと思います。これをこの年になりますと若い人にもっと伝えたいというのがあります。中国、ベトナムにも行きました。でも、日本の若い人たちにこれは傳承していきたいということで、今回もう一度何とかしようということで、このマイスターに応募しました。これで受かって受からなくても一緒ですけれども、受かったからにはできないものはない。最後までやり遂げるといふ決意のもと今後も技能に携わってきたいと思っております。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

司会： ありがとうございました。

続きまして、濃沼晴治様、お願いいたします。

濃沼晴治様： 多摩区菅馬場の濃沼です。ちょうど女子大通りの塚戸に住居を構えております。店を持っております。店の名前は丸晴工務店と申します。技能についてお話ししたいと思います。私は高校を1年半でやめまして、横浜の大工で修業しました。その当時は南京虫が相当いまして、お風呂に入るとかゆいくらい。今の若い衆の修業と私たちの修業とは全然違います。と同時にその当時は「見て覚えろ」と絶対教えてくれませんでした。先輩が箸を持つまで私たちは箸を持ってない。箸を置くのも先に置かなくてはいけない。そういう徒弟の制度というのはすごく厳しかったです。私も住み込みだったので、娘さんの洗濯物、先輩の食事とか、盛り付けなんかも先にして先

輩が終わると同時に私たちも終わっていないといけないという修業をしておりました。修業といってもその当時は渡り職人というのがいまして、その方は転々と工務店を渡りますので、素晴らしい技能を持っています。私たち見習いが見に行きますと、さつとタオルを乗せて見せないんです。本当に少ない小遣いの中で、昔はコウモリバットというコウモリの絵が描いてあったバットというたばこがあったのですが、本当になけなしの金をはたいて、それを持って行って少し教えてくださいという形で技能を教わったわけです。今はそういうことはいたしません。本当に手取り足取りしております。私が店を持ったときには、やはり住み込み以外は採用しませんでした。というのは、そういう厳しい制度を続けていかななくてはいけないのではないかと。目で教えて、耳で教えるのではなく、自分で盗む、仕事を盗むこと。一番大事なのは、職人は角で泣く、角ですね、角に仕事がいっぱい入ってくる。

何種類も。ただ切ってボンドをつけて張るのと、細かい組み方をすると、そこに教えるべき技能があるのではないかなと。本当に真剣に教えておかなければ。これからの神社・仏閣、また一般住宅の古民家風の住宅、住宅というのは一代、二代抜け、三代目あたりに家をつくれれば高校・大学の学資が出るんです。今は2年か3年なれば雨が漏る、そんな住宅がすごく多いのです。ましてプレカットという時代ですね、手で刻む時代はもう終わりました。でも、材料は、木は一生懸命育てております。木には生命があります。一生懸命生きております。そういう木を日本の住宅に使ってあげて、外国の材料じゃなく日本の木を使ってあげて、これから私は一生懸命若い衆を育てながら仕事に励んでまいりたいと思います。技能を大事にして、これから残された一生を尽くしていきたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。(拍手)

司会： ありがとうございます。

続きまして、須賀俊之様、お願いいたします。

須賀俊之様： ただいまご紹介いただきました須賀俊之と申します。川崎市宮前区平で理容の仕事をしてもらっております。かわさきマイスターに認定していただき自分が今までしてきたことを認めていただけた嬉しさと、自分が担当しているお客様にやっという報告ができたので、その喜びでいっぱいです。今後も初心を忘れずにさらに精進していきたいと思っております。どうもありがとうございました。(拍手)

司会： ありがとうございます。

続きまして、吉澤秀人様、お願いいたします。

吉澤秀人様： 私が、ただいまご紹介いただきました吉澤秀人でございます。川崎区鋼管通で精密金属切削加工を生業として、有限会社吉澤製作所を運営させていただい

ております。私どもには、大きなことを言えるような大きな設備があるわけでもないし、ただ私たちがどうすればいいかを考えましたときに、できるだけ競合しない仕事を探していくことが大事だということです。結局工夫して生きるということをうちの条件にして今日までやってまいりました。そのために偶然ですが後継者に会社を譲ろうと思いましたが、うちのウィークポイントだった細いところにローレットがかからないという欠点がありましたので、せめてそれだけは克服して息子に譲ろうと思っていたのですが、それが偶然0.5ミリにまでローレットがかかるということで、逆に私どもが驚きました。そのほか先端技術の機械に負けないだけの治工具をつくろうということで、おかげさまで競争相手の少ない仕事をやれる方法を考えて今日に至っています。これからも、後継者の育成や技術を伝承していける機会を見つけては、自分の技術を役立てていけるように、川崎の発展のためにお役に立てればと思っています。ありがとうございました。(拍手)

司会： ありがとうございました。

なお、かわさきマイスターが川崎市の技術・技能職者の最高峰であることを示すために認定書授与につきましては、長く同一職業に従事し、市民生活に功績があり他の模範となるすぐれた技術・技能職者を表彰する、川崎市技能功労者等表彰式と合同で実施いたします。かわさきマイスター認定式、川崎市技能功労者等表彰式は、明日、11月5日、水曜日午後2時から川崎市立労働会館大ホールにて開催いたします。

それでは、質疑応答に入らせていただきます。ここからの進行は幹事社さんお願いいたします。

幹事社： よろしく願いいたします。

市長： お願いします。

幹事社： まず、マイスターに選ばれた方、どうもおめでとうございませう。市長は常々川崎はものづくりのまちだということを口にしていらっしゃるんですけども、このマイスターが今回4人の方が新たに選ばれて通算で81人になったということを率直にどういうふうにお受けとめになられるか。

市長： 皆さんもお感じになったと思いますが、4人の方がご挨拶をされて、何も足すことが、おそらくそれ以上の修飾が全く無用と思ったぐらい、こういう方々がいらっしゃることは本当に川崎の誇りだと思ひますし、日本の宝だと思ひています。特にこういった技術・技能を後継者に、次の世代に託してくださるという強い思いを持っておられることに、やはりそういうことに力をかしていただきたいと思ひますし、そのことをしっかりとサポートしていくことが川崎のさらなるものづくり都市としての

発展につながっていくものだと思っています。

今年、私が就任してから初めてのマイスター認定という形になりますが、今日の4名の方も含めてこういう人材が川崎にいるということが川崎の強みだと改めて感じた次第です。

幹事社： ありがとうございます。

各社さん、どうですかね。

市長： よろしいですか。

幹事社： では、先ほどご挨拶をいただいたのですが、一言ずつもう1回4人の方にいただいてもいいですか。こちらから質問しますので。

市長： はい。

幹事社： どうも4名の方おめでとうございます。先ほどの順番で結構なのですが、市長も今、後継者に伝えていくことが重要だとお話をされていたのですが、実際それぞれの現場で後継者を育てる、あるいは後継の人たちに技をつないでいくのは困難な状況になっていらっしゃるのか、ご自分の今の営まれている会社とその業界的にどうなのかという両面で教えてください。

小川登様： 日本のものづくりですが、私たち製造業は、日本では今は衰退していております。その中で開発部門は、日本の開発は日本でしかやりません。あとは開発と日本でしかできない金型そういうものもまだ残ってはおります。そういうものは非常に難しいです。それで、うちみたいな何人か十五、六人以上になりますと、それだけでは食べていけません。自分たちは今の若い人たち、それから60代の人たちも同じですけども、モチベーションを持ってもらって、日本は衰退していくけれども世界は衰退しません。日本と世界と両方を天秤にかけるのではなく、股にかけて世界シェアを狙っていきたいというモチベーション。私たちが20代、30代のころ日本がまだ本当に発展していたときです。そのころの思いを、今の若い人たちにも持ってもらいたいというのが私の仕事だと思っています。それで、自分たち、それから日本だけではなくて中国の人たち、台湾、東南アジアの人たち、アメリカ、ヨーロッパもそうです。そういう人たちと連携をとって製造業というもの、ITだけではなくてものづくりというものを一緒にやっというということで、うちの会社はモチベーションを持とうと思っております。

幹事社： ありがとうございます。

濃沼さん。

濃沼晴治様： 濃沼です。私のところは、住宅づくりですけども、神社仏閣の墨付

けをできる人は非常に少なくなりました。というのは、差し金を今日持ってこられませんでしたけれども、差し金の表の目に、今はセンチが書いてあります。その前は寸の目が書いてあります。その後ろにまた目が書いてあります。その目が使用できなければ神社仏閣はできません。三角の底辺がありますね、1尺に対して勾配、これをまっすぐ進んだのが長玄です。この長玄からまた直角に三角の角にぶつかったのが中勾、そういう原理、それは宮大工をやっている人以外にはわからない原理なのです。勾爰玄というのですけれども、その形を合わせたりしますと、1尺に対して屋根の勾配、それを長玄を結んだ点を合わせますと、この点はどこに使う墨かといった細かい皆さん方が理解できないような数字が出てくるのです。それは図面でも表せますけれども、口頭では言えないような数字なのです。そういった墨を使って神社仏閣ということは反元とか、この形とか、屋根の千鳥破風みたいな、そういった形のところの墨を使うにはどうしても裏金の目を覚えなければ、神社仏閣はできないのです。そういったところがなかなか理解できない。私も本当に理解できなかったのです。でも、通信教育、その当時は工人という通信教育がありました。それで私は一生懸命勉強しましてそれを習得したのですけれども、今の若い人は教えてもらわなくては覚える気はないのです。私は今、小学校の生徒のところにも行って、ナイフの使い方とか、うちでは木工教室がありますから、生徒を連れて木工教室でナイフの使い方とか、彫刻の仕方とか、そういうのを教えています。また、中学生では、私のところへ3日間呼びまして、当日は現場見学、2日目には図面を引かせて、3日目は模型をつくらせるといった指導を担当して、中学校では2校、小学校では1校、来ています。子どもたちも住宅づくりに関心があるのではないかとつくづく感じております。

以上です。

幹事社： ありがとうございます。

どうぞ、須賀様、お願いします。

須賀俊之様： よろしく申し上げます。僕が大事にしているのは、まず来ていただいたお客様を見て、この人はここが気になっているのではないかと思う目と、それを何とかしてあげたいというおもてなしの心だと思います。そこから先さらに大事なのが、信頼関係を築くことだと思うのです。その方が本当に思っている、なかなか口に出せない思いを引き出すのは信頼関係を結ぶことだと思います。信頼関係を結ぶにはどうしたらいいかという、僕が今までやってきたことは、今までの理容室とか美容室のやり方と全く逆で、今までだといかに次回早く来店していただけるかということを考えていたのですけれども、僕は逆にいかにカットを長持ちさせて快適な時間が続くよ

うにして、次回の来店を長引かせるかということを考えてきたのです。結局、それを広めるのはなかなか難しいです。なぜかというとお店の売上げがやはり下がってしまうのです、来店期間が延びるので。だけど、僕は1回のもうけより、短期間のもうけより長期間の本当に一生にわたるお付き合いをさせていただくようなことを考えていて、それで初めて信頼関係が結ばれるのかなと思っています。テクニックというのはもちろん大事で必要なのですけれども、テクニックだけだとほんとうの人の心はわからないと思うので、そこら辺を一番大事にしています。ありがとうございました。

幹事社： 吉澤さん、お願いいたします。

吉澤秀人様： 吉澤です。私どもは聞かれると最初にいつも申し上げるのですけれども、私ども小さな町工場では、常にコンプレックスを持っていました。というのは要するに下請けの分際であり、吹けば飛ぶような町工場であり、ごみのような仕事をやっているというのが私どもの生活源です。だから、それで私どもは困ったことはない。というのは私たちにも私たちの意地があります。仕事が少なきや少ないなりに自分なりに新しいよそでできない技術というものを工夫していかななくてはならない。そのためには何でも食らいついていくんだという気持ちの中で今日まで来ました。

代表的なものは何かと言われると、部品の場合は、これは何に使うと聞かれても、お得意様があってやっていますから申し上げられませんが、自社で開発したもの例えばご存じでしょうか、芸能人で滝沢秀明さんが空中に浮き上がる。あれは全部うちの製品なのです。図面は初めからなかったのです。やっている会社さんの名前を言ってもいいですけども、その会社を辞めた人間が、偶然電話帳を見てうちに来られまして、広告の裏に鉛筆で書いて「こういうのなんだけれどもできないか」と。何かわからなかったので色々聞いているうちに、どうもフライングらしいということで、そのうちああだこうだ言いながらでき上がりました、もう30台か40台この十何年に売っています。現状も年末年始に使う人間の体につけるフックの20人分現在進行中でやらせていただいています。これは、うちの製品だから直接話してもいいのですけれども、ただこの会社さんと言うとその会社がうちに頼んでいることがわかると競争相手ができてしまうので名前は伏せています。ですから、最初に日産でロボットをつくったときも、そのグリッパーは私がつくっているのです。腕がいいからつくったのではなくて偶然そこにいてできるかと言われたからやってみようとかかっただけです。私が後継者に言いたいのは、絶対にチャンスは逃すな、それに逃げるな、できなきやできなくてもいいから時間をくれと言えと。それを後継者には教えています。使っている機械はペンチレースですから、どこにでもある一番安い機械ですけども根性だ

けは一番下になるなということを私は肝に銘じて言っているつもりです。

すみません。

幹事社： ありがとうございます。

あと、すみません、事務局にお伺いしたいのですけれども、21名の応募というのは自薦ですか、他薦ですか。

労働雇用部担当課長： 自薦も他薦も含めてという形になります。

司会： よろしいでしょうか。よろしければ市長を囲んでの記念撮影をさせていただければと思います。

(写真撮影)

司会： ありがとうございます。認定者の方々の製品は記者会見終了後にお持ち帰りいただきます。記者の皆様には、記者会見終了後に撮影をしていただく時間がありますので、あちらに置いてありますけれども、それは後で撮影していただければと思います。

それでは、以上をもちまして、平成26年度かわさきマイスターの認定の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

（「川崎タイ・ラオス経済ミッション団」の派遣について）

市長： いや、それにもしてもマイスターの言葉というのはすごいですね。一言一言が。

司会： 続きまして、川崎タイ・ラオス経済ミッション団の派遣について移らせていただきます。では、団長を務めます市長から概要等について説明させていただきます。市長、よろしくをお願いします。

市長： タイ・バンコク・ラオス・ヴィエンチャンへの訪問について私から話題提供させていただきます。

メコン地域の中心地域にあるタイは、多くの日本企業が進出しており、本市としても今年3月にタイの民間銀行であるカシコン銀行との間で、タイ進出支援に係る覚書を締結したほか、市内企業が活躍できる拠点としてバンコク市内中心部に「川崎中小企業バンコク合同事務所」を設置するなど、市内企業の進出ニーズに対応した支援を実施しております。また、ラオスは、安価な労働力や高い経済成長率などから、新たな投資先として注目されている地域です。

今回のミッションでは、市内企業のタイ・ラオスにおける新たなビジネス活動の一助となることを目的に、現地政府機関等と進出サポートに係る覚書を締結するほか、

現地工業団地の状況や日系企業の動向、インフラ整備状況等の視察を行う予定です。

こうした取組を通じ、市内企業の海外展開支援の充実化を図っていく所存でございます。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

続きまして、同じく団長を務めます川崎商工会議所会頭の山田様、お願いいたします。

川崎商工会議所山田会頭様（以下「山田会頭」）： 川崎商工会議所では、中小企業、ベンチャー企業の成長戦略の1つとして海外展開の支援を行っております。これは生産拠点、それから中小企業・ベンチャー企業の貿易の応援でございます。川崎商工会議所では、2015年のASEAN経済共同体の構築を間近に控えて、成長著しいメコン地域との交流を深めてまいりました。2012年4月には、ラオスのソムサワート副首相、ラオス商工会議所のキサナ・ヴォンサイ会頭を川崎にお迎えいたしまして、セミナーやビジネスマッチングを開催いたしました。その折に、ラオス商工会議所との協力協定を締結いたしました。

2012年11月には、ラオスとカンボジアに総勢53名からなるミッション団を派遣いたしました。両国の関係機関の交流や投資環境などを視察いたしました。ラオス商工会議所とは、共同宣言の締結、及びビジネスマッチングを行いました。

同年12月でございますけれども、カンボジア商工会議所とも経済交流促進を目的とした協力協定を締結いたしました。

このたびのタイ・ラオス経済ミッションにおきましては、タイでは両国の経済交流強化を図るべく、タイ商業会議所との協力協定を締結いたします。ラオスでは2年前の協力協定をより一層深めるため、新たにラオス商工会議所との協力協定を締結いたします。

また、2年前のミッション参加を契機に今年であります、ラオス企業と川崎企業との業務提携に至ったわけでございますが、その信頼関係による業務提携調印式や両商工会議所によるビジネスマッチングを行い、ビジネス機会の創出を目指してまいります。

私から以上でございます。

司会： ありがとうございます。

では、質疑応答に入らせていただきます。進行は幹事社さんよろしく申し上げます。

幹事社： 会頭、それから市長お二方がおっしゃるようにメコン地域の発展は著しく、

2015年には原則として関税が自由化されるという追い風もあると思うのですが、一方でカントリーリスクのようなものもあるのではないかと思いますので、そこら辺の政情だとか、経済成長が今後どうなっていくかという点に関して、ご認識としては市長、会頭いかがでしょうか。リスクと今後の成長の見込み。

市長： では、私からよろしいですか。

今回の視察でそのことも含めてよくご覧になっていただけるのではないかと思います。これまでもタイやラオスのことについてのセミナーを商工会議所さんと一緒にやってきましたので、こういった政情でありますとか、あるいはインフラだとか、そういった基本的な認識は今回参加される方々も相当認識はあると思います。それを実際に見ていただくというのは今回いい機会になるのではないかと考えております。

幹事社： 会頭、いかがでしょうか。

山田会頭： そうですね、私は20年ほど前からメコン地域と交流があります。タイ、ミャンマーでの政治の課題があるわけでありまして、私は総じて政治が安定していると考えております。その点のリスクは少ないだろうと考えております。

経済成長は大きな期待をしております。2015年12月の経済共同体が予定されておりますけれども、今回ラオス、タイの訪問でございますが、その中でラオスはメコン地域の中心に位置しておりますので、現在、人口が680万人でございますけれども、メコン地域全体としては人口はおよそ日本の倍でございます。2億4000万人でございますので、先ほども申し上げましたが、生産拠点のみではなくマーケット、市場として大きな期待ができると考えております。

幹事社： ありがとうございます。各社さん、いかがでしょうか。

記者： 今回、市内企業の進出ということも1つの目的だと思うのですが、逆にメコン地域から、今後多分川崎市内も人手不足になってくると思いますが、技能実習生として派遣してもらうという展開にまで今後なるのでしょうか。

市長： 現在ベトナムからは民間ベースでそういった実習生を受け入れているという経緯はありますが、今の段階ではおそらくそういう形にはなっていないという理解ですが、今後はそういう形であるかもしれませんね。

山田会頭： 日本の経済界の人手不足を考えますと、メコン地域、あるいはASEANの国々からの人材は日本としても大きな期待、川崎経済界としても大きな期待をしております。長い交流をしておりますと、俗っぽく申し上げますと相性がいいと思うのでしょうか、またこういう席で申し上げるのは僭越だと思いますけれども、仏教、儒教の精神がベースにありますので、そういった視点からも相性がいいなと思ってお

りますので、大きな人材の期待をしております。

記者： わかりました。

記者： 自治体がタイやラオスとこういった連携の覚書とか交わすのは向こうの国では多いのですか。日本の国と、というのは。

市長： 山田会頭のほうをご存じだと思います。例えばタイとは大田区がやっていたりとかあると思いますが、実績ベースでわかりますか。

国際経済推進室担当課長： タイの工業省さんにつきましては、県単位で実際に覚書を結んでいるところがございます。

記者： 具体的に言うとうどういう、結構あるということですか。

国際経済推進室担当課長： 愛知県、山梨県、埼玉県さんはタイ工業省と結んでおります。

記者： ラオスのほうは。

国際経済推進室担当課長： ラオスは今のところ自治体では我々は把握してはおりません。

記者： 川崎市がこうやってタイ、ラオスと締結を結ぶというのは商工会議所さんでは最近ありますけれども、市としては……。

市長： 初めてです。

記者： それは経済に関わらずほかの分野においても。

市長： 先ほど申し上げたとおりカシコン銀行という形ではありますけれども、国だとか、あるいは自治体という形では初めてです。でよろしかったですね。

記者： すみません、もしわかればですけれども、現地日系企業というのは、大手ばかりなのですか。

幹事社： 東洋ロザイさんのことではないのですか。

市長： これから駐在をとということですか、そうですね。

国際経済推進室担当課長： 東洋ロザイさんはラオスに駐在を予定しております。大手さんということですか。

記者： 大手というか……。

国際経済推進室担当課長： 訪問先の企業さんということですか。タイのほうは県内の企業を予定しております。神奈川県にある企業さんで現地にタイに出ている企業を予定しております。

記者： はい、わかりました。

司会： よろしいでしょうか。

それでは、本件につきましては、これで終了させていただきます。

《市政一般》

（平成26年第4回市議会定例会について）

司会： それでは引き続き、市政一般となります。進行は幹事社さんお願いいたします。

幹事社： 早いもので11月議会ももうあとわずか、市長が帰っていらっしゃったらすぐ12月議会になると思いますが、2月の議会に向けて、いよいよ福田市長になってから初めての予算を組む前段階ということですが、一方で給食もそうですし、待機児童もそうですし、お金はいっぱいかかる。交付税は残念なことになってしまっている。ここ11月、12月の議会で来年度の助走のような形で政策の一端が打ち出されるのではないかと、財源対策も含めてですが、思うのですけれども、今の段階で11月、12月議会でこういったことに注目しておいてほしいというものがあればお考えをお聞かせください。

市長： 今オータムレビューをやっている最中で、今日も午前中、複数の局のものをやりましたけれども、今まさにスクラップ・スクラップ・アンド・ビルドということをお願いしておりますけれども、どれだけ政策というものを絞り込めるかということをやっているまさに最中のところでありますので、現時点で何かというものはございません。

幹事社： スクラップ・スクラップ・アンド・ビルドという言い方と、市長が今おっしゃられたような政策をどれだけ絞り込めるかという話をお伺いすると、私も含めて早とちりなマスコミや何かが、今まで出されてきた例えば補助金だとか、そういったものが切られてしまうのではないのかというような不安を抱かれる方もいらっしゃるのではないかと、思うのですけれども、市長のおっしゃっているスクラップ・スクラップ・アンド・ビルドというのは、どういうところを具体的にスクラップして、どういうところをビルドしていかれるのか、そこら辺の考え方を聞かせてください。

市長： 今までやってきた中で数々精査してきたと思いますけれども、それでも本当にこれが市としてやっていくべき政策なのかどうかという見極めが必要だと思います。ですから単純に何かを切るという、切ることありきということよりも、本当にこれからも市としてこれがやっていくべきことなのか、あるいは民間でやるべきことなのかということも含めて、あるいは市民の皆さん独自でやっていただくべきものなのかということも含めた議論をしていかななくてはいけないと思っています。そういうことを

しっかりと市民の皆さんにわかるように、わかりやすい説明をしていかないといけないと思っています。

幹事社： わかりました。各社さん、どうぞ。

(人事委員会勧告について)

幹事社： 先週30日に名古屋市で、河村たかし市長が人事委員会勧告を拒否されるという話がありましたけれども。

市長： そうですか。

幹事社： それは非常に異例なことだと思うのですけれども、当然、先ほど出ました11月議会というのは給与改定のもが入ってくるべき議会だと思うのですけれども、ということは、当然、川崎市さんとしての方針は固まっていると思いますが、まず、川崎市さんとしては勧告を受け入れるということなのかどうなのかというのがまず1つ。その拒否をされた名古屋市の姿勢に対して福田市長のお考えを聞かせていただきたいです。

市長： 前も少しお話ししたかもしれませんが、それぞれの自治体がそれぞれの給与の状況というのがあって、その中で決められていると思いますので、名古屋市さんがどういう判断をされるにしても、それについて私がああだこうだ事情がよくわかっていないのに言うべきではないと思っています。

それと、人事委員会勧告には、この前も申し上げましたけれどもしっかりと尊重していきたいと思っております。

幹事社： 人事委員会勧告については尊重されるということですか。

市長： はい。

幹事社： ありがとうございます。各社さんどうぞ。

(横浜銀行・東日本銀行の統合について)

記者： よろしいでしょうか。今朝の日経新聞が横浜銀行と東日本銀行、地銀同士の経営統合で地銀トップをさらに強固にしていくという報道がありまして、月内に発表があるそうですが、これに関して浜銀というと地元の中小企業に寄り添ってきた地銀だと思うので、こういった地域密着の姿が変わっていくのかどうか、影響をどのように考えていらっしゃるかを願います。

市長： 担当からも横浜銀行さんに問い合わせをさせていただいたところ、公式的には、今そういう検討には入っているけれども、決定には至っていないということだと

聞いております。なので、経営統合後の話について、されるかされないかまだ決定されていないので、コメントのしようがないのですが、例えされたとしても東日本銀行さんも川崎市内に2店舗あるということでございますので、そういった意味ではよりきめ細やかな対応が市内の顧客に対してしていただければいいと、今はそういう段階の中で言うのも拙速なコメントかもしれませんが。

記者： すみません。

市長： そういうふうには思っています。

記者： ありがとうございます。

(特別秘書について)

記者： 先ほど次の議会の話が出ていましたけれども、こないだの議会に取り下げた特別秘書の議案については、今はどのような状況で市長は考えていらっしゃいますか。

市長： いや、まあ、何ともコメントしづらいですけども、どうですかね。

記者： 出すつもり、すぐにでも出す気持ちがあるのか、もうちょっとしばらく様子をみたいという気持ちなのか。

市長： まだちょっとわからないですね。まだ時間があるのでゆっくり。議会の皆さんとの信頼関係が大切だと思っていますので、そういったところの総合的な判断をと思っています。

記者： 必要性に関しては変わらず必要だという認識であることは今も変わらないということですか。

市長： はい。

(小黒恵子氏からの遺贈について)

記者： 詩人の小黒恵子さんの童謡記念館が市に寄贈されるということですけども、そのことについて市長の考えをお聞かせ願いますか。

市長： 小黒さんの生前の意志というものについては、小黒さんが亡くなった確かその日に私はお伺いしたと思いますし、葬儀にも参列させていただいて、意志をしっかりと尊重していかなくてはいけないと思っています。

すばらしい作品をたくさん残しておられますので、そのことが地域、川崎のみならず広く子どもたちに伝えていけるようにしなければならないと思っています。

(来年の統一地方選挙について)

記者： 来年の統一地方選まで半年を切るような形で近づいてきているのですが、市長は来年の統一地方選について、大分前にも聞いたのですが、地域政党的なもの、あるいは市長与党というものを立ち上げる予定はないとお話ししていましたが、現時点ではそういった考えだとか、あるいは個別具体的に応援をしたい議員とかは出てきているのですか。

市長： まず、地域政党に関しては全く考えは変わっておりません。自分で何かそういうものを形成しようなんていうつもりは毛頭ございません。それから、この前の選挙で応援してくれた数少ない議員がいますけれども、そのメンバーはポスターで写真をとる形で依頼があって、それについてはお受けしました。

記者： それは半年前でポスターを皆さん、各市議の方とか張り替えをしているということで、それ用に使う2連ポスターということですか。

市長： はい。そうですね。

記者： それは市長選で応援してくれたということは、自分の考えに賛同してくれているということ、あるいは相手の議員の方の政策なり考え方と市長は……。

市長： そうですね。ただ単純に選挙を応援してくださったからという話ではなくて、むしろ政策的な一致というのがもちろん大前提になるということです。

記者： それをつくったのは2人ということですか。数少ない。

市長： 数少ない。

記者： なるほど、今後そういう形で市長の政策に対して賛同できるということが出てくれば、ほかの現職の議員なり無所属なりわからないですけども新人なり、そういうふうにつくってほしいという声があればつくるということですか。

市長： 基本的には、意外なことに市外だとか県外の方から求められることがありまして、数件。全てお断りしました。

記者： 断ったのですか。

市長： 何かあまり関係ないでしょうという感じですからね。相手方もどうして、よっぽど人がいなかったのだろうなと思って。

記者： それは断っているのですか。

市長： 断っています。

記者： 市内であれば断らない？

市長： うーん。

記者： 人によるということですか。

市長： 仮に、あれば考えるぐらいですね。

（横浜市との待機児童対策に関する協定について）

幹事社： 先日、横浜市さんと両市長の英断によってだと思うのですが、保育待機児童対策について連携をされましたけれども、そのとき会見に私は出ていなかったもので、まず改めて一言おっしゃっていただくのと、あとはほかの分野でも色々協力をしていかれるようなお考えがあるんだと思いますけれども、何か具体的ではなくてもこういうことができたらいいなという構想があれば教えていただければと思います。

市長： 横浜市さんと、子育てに関する、待機児童に関する協定を結べたということはすごくうれしいことで、そもそも会見のときにも言ったのですが、私の住んでいるところも横浜市青葉区と本当に数百メートルのところでありまして、マンションの住民が待機児童になったので、川崎では入れないからといって横浜の青葉区に引っ越したという事例が実際にあって、こういうことはあってはいけないなど。行政の見えざる壁という表現をしましたがけれども、こういったことを取っ払いたいということで、本市のほうから横浜市に呼びかけをさせていただいて、林市長も是非ということだったので、大変いい協力があったなと思っています。

同じ政令指定都市同士で、かつ隣接しているというのは、ある意味強みだとも思います。そういった意味ではこの待機児童だけではない色々な今後の取組の連携の可能性はますます広がるだろうと思っています。実際もう既に覚書という形でやっていると思いますが、交通政策についても横浜と川崎で一緒に取り組んでいきたいと思いますという話も、覚書もありますし、こういった分野についても、一緒に進めていく課題だと思っています。

幹事社： ありがとうございます。

幹事社： そういう覚書があるんですね。

市長： あります。

幹事社： 南武線の連続立体交差と、それは横浜市に協力してもらわなくてはならないことで、川崎市が協力しなければならないこととして、あざみ野から向ヶ丘遊園じゃなくて……

市長： 新百合ヶ丘ですね。

幹事社： 新百合ヶ丘までですけれども、あそこら辺はうまくいっているのですか。

市長： 全体的に道路、鉄道だとかというのは、大きなネットワークとしてやっていかななくてはいけないところに、市境でもって計画が駄目になってしまうというこんな不幸なことはないので、できるだけお互いの自治体が色々な事情はあるにせよ、しっ

かりと協力していくことというのは必要なことだと思っています。

幹事社： いいですかね。

司会： よろしいですか。

それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355